

能登・七尾のこどもたちに「笑顔」と「防災の学び」を 「ファミマこども食堂+セーブ・ザ・チルドレン」 合同ワークショップを開催 ～親子で楽しく防災を学び、災害への備えを支援～

株式会社ファミリーマート（本社：東京都港区、代表取締役社長：小谷建夫）は、2026 年 9 月に創立 45 周年を迎えました。継続して取り組んできた 5 つのキーワードを土台とし、「いちばんチャレンジ」を合言葉に活動をしていきます。

このたび「いちばん地域に愛される」を目指した取り組みの一環として、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（以下、セーブ・ザ・チルドレン）と合同で、9 月の防災月間に合わせて、令和 6 年能登半島地震の被災地である能登地域にあるファミリーマート七尾白馬店（石川県七尾市）にて「ファミマこども食堂+セーブ・ザ・チルドレン」合同ワークショップを開催いたしました。



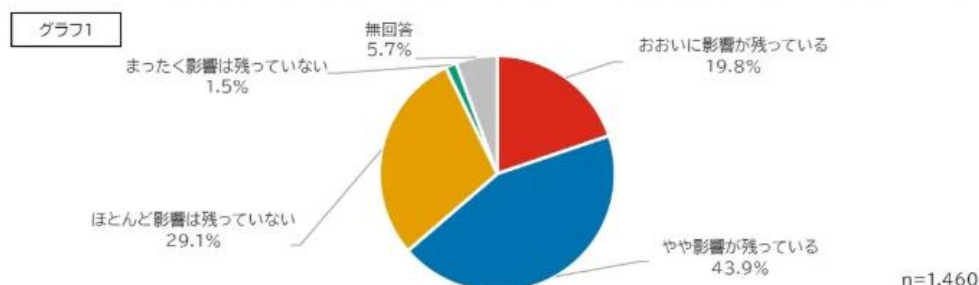
■復興過程で求められる「こどもの居場所」と「心のケア」

2024 年 1 月に発生した令和 6 年能登半島地震から時間が経過した現在も、被災地域では仮設住宅の設置に伴う校庭・公園の減少や、地域コミュニティの分断などにより、こどもたちの「遊び場」や「安心して過ごせ

る居場所」の不足が課題となっています。セーブ・ザ・CHILDRENが2026年5月に発表したアンケート調査においても、被災した子育て世帯の6割以上が現在も「子どもの生活や心へのマイナス影響」を感じており、特に遊び場や居場所の減少に伴う、こどもの心理的影響を懸念する声が多く寄せられています。

関連 URL: https://www.savechildren.or.jp/scjcms/sc_activity.php?d=4975

Q. 能登半島地震、奥能登豪雨により、今現在も子どもの生活にマイナスの影響が残っていますか。(任意・単一回答)



セーブ・ザ・CHILDRENによるアンケート

「能登子ども給付金～卒業・新入学サポート2025～」調査結果（2026年5月）

こうした現状を受け、住民の暮らしや買い物の課題が続く能登地域において、出店するコンビニエンスストアとして生活インフラを支え、復興にコミットし続けるファミリーマートは、地域に寄り添う存在として、こども支援の専門NGOであるセーブ・ザ・CHILDRENと協同して活動を続けています。これまで店頭募金「ファミリーマート夢の掛け橋募金」を通じた支援に加え、過去2回にわたり防災意識の啓発を目的とした合同ワークショップを東京都で開催してまいりました。3回目となる今回は、被災地である能登半島・七尾市の店舗にて、こどもたちが笑顔を取り戻し、災害に備える知恵を育むための体験型イベントを企画いたしました。

■ ごみ袋がレインコートに変身！？「防災の学び」とあふれる「笑顔」を生む特別プログラム

当日は近隣のご家族やおこさま14名が参加し、いざという時に役立つ防災の知恵を学ぶ体験型コンテンツと、店舗のお仕事体験を実施いたしました。

まずは「非常用持ち出し袋」のワークショップです。セーブ・ザ・CHILDRENのスタッフから、災害時に身を守るための重要な役割について学んだ後、袋の中身や使い方を一つひとつ確かめました。さらに、「あなたが非常用持ち出し袋に入れるのはどんなもの？」という質問を投げかけると、こどもたちは実際に売場へ向かい、「カトラリー」や「調味料」など、こどもならではの視点で非常時に役立つ商品を自ら考えて選び出しました。

「ごみ袋レインコート作り」では、45Lのごみ袋とハサミ1本でできる簡易レインコート作りを通じ、身近な日用品が、雨や冷えから身体を守る防災グッズに早変わりする知恵を学びました。思い思いの色や絵を描いてオリジナルのレインコートを作ったこどもたちは目を輝かせて完成品を身につけていました。

加えて、ユニフォームを着用し、レジ打ちや飲料補充などの「店舗お仕事体験」を実施し、普段は見ることのできない店舗の裏側に触れながら、新たな発見や笑顔が生まれる時間となりました。最後はイートインスペースでのお食事会を行い、参加者全員で食事を楽しみながら温かい交流を深めました。



袋の中身を考えるこどもたち



レインコートにお絵描き



レインコート着用



みんなで食事

■ 主催者・参加者のコメント

参加したこどもの声

- ・レインコートを作ることも、ファミマのおしごと体験も楽しかった。
- ・実際に災害が起きたときに使えるのが色々あることがわかった。

参加した保護者の声

・こどもたちが日頃から利用しているファミリーマートでお仕事体験ができ、こどももとても嬉しそうでした。それだけでなく、防災についての学びも親子で一緒に楽しめたのが素晴らしい機会になりました。特に作ったレインコートは、災害時はもちろん日常のさまざまな場面で実用的に使えると感じました。

・和気あいあいとした雰囲気のワークショップで、座学で学ぶよりも楽しく防災について理解を深められたと感じます。レインコート作りも意外性があり勉強になりました。日常使いはもちろん、非常時にも多くの人が足を運ぶ『身近なコンビニ』の役割を改めて実感できる、とても良い経験になりました。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンのスタッフの声

セーブ・ザ・チルドレンは、国内外で自然災害が発生した際、いち早く支援を行い、子どもたちの日常性の回復をサポートする緊急・復興支援を展開しており、防災にも力を入れています。子どもたちの声を聴き、子どもたち自身が考え、課題解決に主体的にかかわるアプローチを大切にしています。能登半島地震及び豪雨で影響を受けた能登地域の子どもたちを支援するさまざまな活動も続けています。

ファミリーマートの店舗という実際の売り場で、子どもたちが自ら必要なものを考えたり、身近なものを使って防災に役立てるという経験を通じ、防災を「自分ごと」として捉える機会になったのではないかと思います。子どもたちの発想や視点には、周囲の大人たちにとっても、新たな気づきや学びとなることが多いです。子どもと大人、皆で防災について考えるきっかけとなったのであればうれしいです。

<開催概要>

- (1) 実施日時：2026 年 9 月 9 日（水）16:30～18:00
- (2) 参加者：ファミリーマート店舗近隣にお住まいのおこさま（小学生まで）とそのご家族
- (3) 開催場所：ファミリーマート七尾白馬店（石川県七尾市）
- (4) 開催内容
 - ・オリエンテーション（自己紹介など）
 - ・セーブ・ザ・チルドレン防災ワークショップ：
 - 「非常用の持ち出し袋の中身を考えてみよう！」
 - 「ごみ袋でレインコートをつくってみよう！」
 - ・こどもたちによる店舗でのお仕事体験（レジ打ち体験、商品陳列体験など）
 - ・みんなでお食事（メニュー例：おむすび、ファミチキ、飲み物など）

ファミリーマートは、「あなたと、コンビニ、ファミリーマート」のもと、地域に寄り添い、お客さま一人ひとりと家族のようにつながりながら、便利の先にある、なくてはならない場所を目指してまいります。

以上

<参考情報>

■新聞紙のお椀で「ファミチキ」を美食！「ファミマこども食堂＋セーブ・ザ・チルドレン」 防災月間に食育や防災体験を開催（2025 年 09 月 29 日）

<https://www.family.co.jp/sustainability/topics/2025/s20250929.html>

■「ファミマこども食堂＋セーブ・ザ・チルドレン」を共同開催 防災月間に合わせた防災ワークショップを実施（2024 年 09 月 20 日）

<https://www.family.co.jp/sustainability/topics/2024/s20240920.html>

■「ファミマこども食堂」について

<https://www.family.co.jp/sustainability/children/kodomo-syokudo.html>

■ファミリーマート、NTT ドコモ、NTT ドコモビジネス、石川県能登地域における移動型販売店舗の運行の実証実験を開始 ～平時・災害時の地域支援を担う移動型販売店舗の実用化を検討～

https://www.family.co.jp/company/news_releases/2026/20260715_01.html

■セーブ・ザ・チルドレン「子どもにやさしい防災」

<https://www.savechildren.or.jp/lp/drr/>

■「いちばんチャレンジ」に込められた思い

ファミリーマートは、2026 年 9 月に創立 45 周年を迎えました。

時代の変化に合わせ、コンビニの枠を超えてお客さまに「いちばん」と選ばれる存在であり続けるため、私たちは「あなたのいちばんをたくさん作る『いちばんチャレンジ』」を新スローガンに掲げました。

この合言葉のもと、「おいしい」「ちょっとおトク」「わくわく楽しい」「ステキが見つかる」「革新的・最先端」「環境にやさしい」「働きたい」「地域に愛される」という 8 つの分野に基づき、ファミリーマート史上最大の挑戦を続けてまいります。

45 周年特設サイト：https://www.family.co.jp/campaign/spot/2026_45th.html